

池田市埋蔵文化財発掘調査概報

2000年度

2001年3月

池田市教育委員会

序 文

池田市は大阪府の北西部に位置し、五月山の緑、猪名川の水の流れに囲まれています。このような自然の豊かな環境の中、人々が先史の時代から営み始めています。

近年はこの地も、陸・空の交通の要衝として、また、大阪のベットタウンとして開発が進み、大きく発展してまいりました。

しかしながら、このような開発、発展とは裏腹に、我々の祖先が伝え残してきた文化遺産や自然が破壊され、昔の面影をしのぶことができないほど様がわりてしまったことも事実です。祖先から受け継がれてきた文化遺産を現代生活に生かしつつ、また、後世に伝えていくことが我々の責務と考えております。

この報告書は、上述した状況の中、危機に面している埋蔵文化財について、国の補助を受けて実施した発掘調査の概要報告であります。本書が文化財の保存と理解に役立てば幸いと存じます。

なお、調査の実施にあたっては多くの御教示、御助言をいただいた諸先生並びに関係機関をはじめ、土地所有者、近隣住民の方々より文化財保護に対して、格別の御理解と御協力をいただきました。心より感謝と敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成13年3月

池田市教育委員会

教育長 長江 雄之介

例　　言

1. 本書は、池田市教育委員会が平成12年度国庫補助事業（総額1,000,000円、国庫50%）として実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。
2. 本年度の調査および期間は下記のとおりである。

禅城寺遺跡第3次発掘調査	池田市城南2-77-1	平成12年10月10日～10月13日
池田城跡第42次発掘調査	池田市建石町1574-39	平成12年12月11日～12月19日
3. 調査は、池田市教育委員会教育部社会教育課文化財担当が実施し、中西正和が現地を担当した。
4. 本書の執筆・編集は中西が行なった。また、本書の製図にあたっては野村大作・辻美穂・上谷浩司の協力を得た。
5. 本書で使用する土層の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所 色票監修）による。
6. 調査の実施にあたっては、施主並びに近隣住民の方々より多大のご理解、ご協力をいたしたことに対し、深く感謝の意を表する次第である。

目 次

I	歴史的環境	1
II	禪城寺遺跡第3次発掘調査	5
	はじめ	5
	調査の概要	6
III	池田城跡第42次発掘調査	7
	はじめ	7
	調査の概要	9
	発掘調査抄録	10

図 版

図版1 禪城寺遺跡第3次発掘調査

- (1) トレンチ全景（南西から）
- (2) トレンチ全景（北西から）

図版2 池田城跡第42次発掘調査

- (1) トレンチ全景（西から）
- (2) トレンチ全景（南西から）

挿図目次

I 歴史的環境

第1図 宮の前遺跡出土ナイフ形石器	1
第2図 畑山上有茎尖頭器	1
第3図 遺跡分布図	2
第4図 威三堂古墳竪穴式石室	3
第5図 池田城跡主郭部建物跡	4

II 禅城寺遺跡第3次発掘調査

第6図 禅城寺遺跡第2次調査	5
第7図 調査地位置図	5
第8図 トレンチ位置図	6
第9図 トレンチ平・断面図	6

III 池田城跡42次発掘調査

第10図 池田城跡主郭部	7
第11図 調査地位置図	7
第12図 トレンチ位置図	8
第13図 トレンチ平・断面図	9
第14図 池田城跡繩張り図	9

I 歴史的環境

池田市は大阪府の西北部に位置し、東西4.1km、南北9.2kmの南北に細長い市域を有している。その位置は、西摂平野の北部、丹波山地に源を発する猪名川が北摂山地を分断して平野部に出たところにあり、古くから谷口集落として、大阪と丹波・能勢地方の物資集散、文化交流に中心的な役割を果してきた。

池田市の地形をみると、市域のほぼ中央を五月山塊が占め、それより北には、北摂山地と余野川によって形成された沖積平野が広がっている。また、五月山より南には、標高50~100mの緩やかな五月山丘陵が広がり、更に南側には、猪名川によって形成された広大な沖積平野が広がっている。このような自然環境の中で、人々が旧石器時代から生活を営んでいたことが近年の発掘調査で明らかにされている。

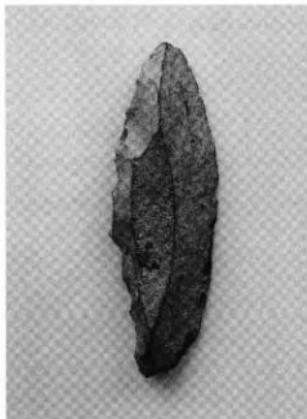
旧石器時代

現在のところ旧石器時代に関するものは希薄である。遺物が出土した遺跡としては、伊居太神社参道遺跡・宮の前遺跡（螢池北遺跡）、宮の前西遺跡が挙げられるが、遺構に関しては未確認である。

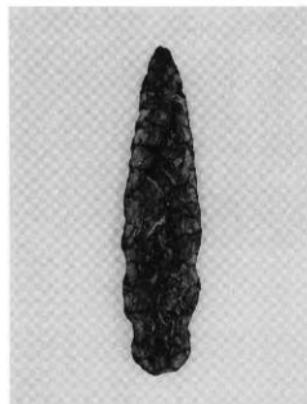
伊居太神社参道遺跡は標高約50mの五月山塊の西端部に位置し、明治年間から石器が採集され、その中に少量ではあるがナイフ形石器・尖頭器等の旧石器時代に比定されるものが認められている。宮の前遺跡では、昭和期から旧石器が収集され、発掘調査では、昭和61年度の大坂府教育委員会や平成元年度の豊中市教育委員会による螢池北遺跡の発掘調査で国府型ナイフ形石器が出土している。また、宮の前遺跡に隣接する宮の前西遺跡からは翼状剥片1点が採取されている。

縄文時代

五月山丘陵に位置している遺跡では、上述した伊居太神社参道遺跡で、縄文時代のサヌカイト製の石鏸、京中遺跡ではサヌカイト製の石鏸・石匕が採取され、近隣の畠でもサヌカイト製の尖頭器が採集されている。また、近年の発掘調査においては、池田城跡下層からサヌカイト製の石鏸、晩期の生駒西麓産突帯文上器が出土している。一方、南部の台地に位置する神田



第1図 宮の前遺跡出土ナイフ形石器



第2図 畠出土有茎尖頭器



- | | | | |
|-----------|---------------|---------------|----------------|
| 1. 飯ヶ瀬遺跡 | 2. 古江古墳 | 3. 古江北古墳 | 4. 吉州廻跡 |
| 5. 古江遺跡 | 6. 木原遺跡 | 7. 木製1号棺 | 8. 木製2号棺 |
| 9. 木原純山古墳 | 10. 安宿神生塚古墳 | 11. 伊波太村多道塚古墳 | 12. 紫三塚古墳 |
| 13. 塩三塚古墳 | 14. 花川城跡 | 15. 池田西口山古墳 | 16. 五月ヶ丘古墳 |
| 17. 佛母北遺跡 | 18. 菖浦1号古墳 | 19. 菖浦2号古墳 | 20. 石櫛美寺 |
| 21. 新緑西遺跡 | 22. 有原草分殿器山上地 | 23. 京中遺跡 | 24. 夏浦北遺跡 |
| 25. 野田駒古墳 | 26. 鈴原古墳 | 27. 朴原河原跡 | 28. 佐原古墳 |
| 29. 石橋古墳 | 30. 二子坂古墳 | 31. 保坂寺墓群 | 32. 宇佐健名麻彦神社三塚 |
| 33. 宇佐遺跡 | 34. 神田北遺跡 | 35. 稲桜古墳 | 36. 門田遺跡 |
| 37. 神田南遺跡 | 38. 天神遺跡 | 39. 長島西古墳 | 40. 佐吉・宮の前遺跡 |
| 41. 宮の前遺跡 | 42. 牧並山董跡 | 43. 志原 | |

第3図 遺跡分布図

北遺跡では石鎌と石匕、宮の前遺跡では石棒が採取されている。また、豊島南遺跡では後期から晩期の土器が出土している。しかし、出土した土器は少量で、遺構は検出されておらず、縄文時代の集落等の規模・性格等は明らかではない。

弥生時代

弥生時代前期の遺跡としては、五月山北麓に位置する木部遺跡が挙げられる。木部遺跡は工事中に発見された遺跡で本格的な調査がされていないため、詳細は不明である。しかし、弥生時代前期から後期の土器が出土しており、池田市内では唯一弥生時代全般を通じて営まれた遺跡である。弥生時代中期においては、台地上に位置する場所で遺跡が現れるようになる。宮の前遺跡は昭和43年・44年に中国縦貫自動車道建設とともに、大規模な発掘調査がなされ、方形周溝墓、堅穴式住居跡、土墳墓等の遺構が多数検出されている。また、宮の前遺跡から約1km西に位置する豊島南遺跡では方形周溝墓が検出され、宮の前遺跡との関連が注目される。後期に入ると、宮の前遺跡、豊島南遺跡は消滅し、かわって、五月山の丘陵上に位置する池田城跡下層、鼓ヶ滝遺跡、京中遺跡、愛宕神社遺跡等の遺跡が現れる。池田城跡下層では平成3年の調査において、ベット状遺構を伴う堅穴式住居跡が検出されている。また、台地では神田北遺跡において、堅穴式住居跡、土坑が検出されているが、全体的に後期に入ると集落は五月山の丘陵に散らばり、小規模化する。

古墳時代

池田市内に残る古墳時代前期に築造された古墳は、池田茶臼山古墳と娘三堂古墳が挙げられる。この2つの古墳の主体部は共に堅穴式石室である。池田茶臼山古墳は五月山塊より派生する丘陵の鞍部に築造された全長62mの前方後円墳で、葺石・埴輪列が検出されている。一方、娘三堂古墳は池田茶臼山古墳より北西約500m離れた五月山中腹に位置する径27mの円墳で、石室内からは画文帶神獸鏡が出土した。また、平成元年度の調査の結果、同一の墓壙内に堅穴式石室と粘土椁が存在することが確認されている。

古墳時代中期に至ると高塚式の古墳はなくなり、かわって、小規模な低墳丘古墳が宮の前遺跡、豊島南遺跡で見られるようになる。古墳時代後期では善海1・2号墳、木部1・2号墳、木部桃山古墳、須恵器の胸棺を持つ五月ヶ丘古墳のような単独、あるいは2~3基を一単位とする小規模な古墳が現れるが、群集墳は形成されてはいない。しかし、一方で、巨大な横穴式石室を有する鉢塚古墳や前方後円墳の二子塚古墳が築造されており、この地域の古墳の中でも、異質の存在である。

古墳時代の集落遺跡としては、古江遺跡、木部遺跡等で須恵器や土器が出土しているが、これらの遺跡では、遺構の詳細は判然としない。豊島



第4図 娘三堂古墳堅穴式石室

南遺跡では布留式の土器を伴う焼失住居跡が検出され、現在のところ、市内において古墳時代前期の集落遺構が確認された唯一の遺跡である。中期に入ると少しではあるが、検出遺構も増加していく。宮の前遺跡では竪穴式住居跡が検出されており、また、豊島南遺跡では竪穴式住居跡・溝跡が検出されている。

歴史時代

集落遺跡としては、宮の前遺跡で奈良時代の掘立柱建物跡・溝跡が検出されおり、

豊島南遺跡、神田北遺跡においても奈良時代の掘立柱建物跡等が検出されている。寺院跡としては白鳳・天平時代の瓦が採取された石積廃寺があるが、未調査のため詳細は明らかではない。中世では神田北遺跡で掘立柱建物跡が検出されており、後白河院領として開発が推進された吳庭荘と関係するものとも考えられる。

室町時代から戦国時代にかけて、国人の池田氏が豊島郡一帯の政治、経済を掌握するようになる。その池田氏の出自の詳細は明らかではないが、応仁の乱ごろから摂津守護細川氏の被官として勢力を拡大させていくが、永禄11年（1568）織田信長の摂津入国により、池田氏は降伏を余儀なくされ、ついには、元家臣荒木村重によって、その地位を奪われることになる。池田氏の居館であった池田城は、五月山塊から南方へ張り出した台地上の南麓に位置し、現在でも主郭は土壘や空堀が良好に残る。昭和43・44年に主郭部の一部が調査された際、礎石を伴う建物跡や枯山水様の庭園跡が検出され、また、平成元年度から平成4年度の調査では虎口、建物跡、小規模な石垣、内堀、埠列建物跡等を確認している。



第5図 池田城跡主郭部建物跡

参考文献

坂口董雄「地形と地質」『池田市史』各説編 1960年

富田好久「考古学上に現れた池田」『新版池田市史』概説篇 1971年

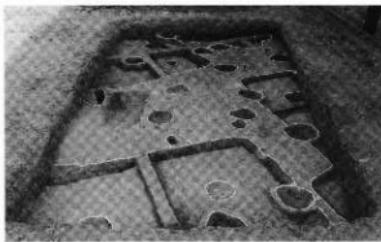
橋高和明『原始・古代の池田』池田市立池田中学校地歴部 1985年

II 榛城寺遺跡第3次発掘調査

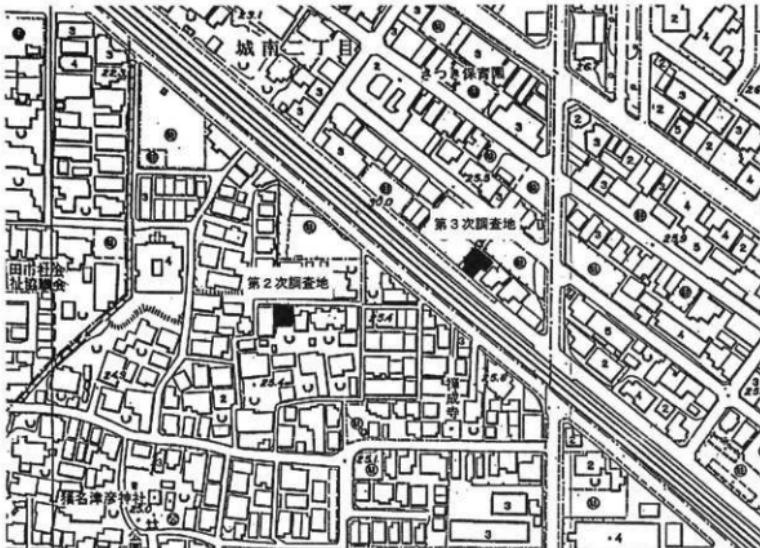
はじめに

榛城寺遺跡が位置する宇保町一帯は吳庭荘とよばれ、11世紀頃、土師氏によって開発されたと考えられる。その後、平安時代後期の鳥羽院政期には皇室領となり、鎌倉時代に入ると皇室領からは離れ、農業信仰の牛頭天王を祭神とする吳庭總社を創設し、社領荘園として直接支配が図られた。善城寺も吳庭總社とともに氏寺として創建された。榛城寺は坂上系譜にみられる善城寺の後身と考えられるが、詳細は明らかではない。

榛城寺遺跡の発見は、昭和62年マンション工事中に中世の瓦が発見されたことからはじまるが、その後、調査の件数が少なく不明な点が多かった。しかし、平成9年、遺跡の東側に位置する府道拡幅工事に伴う大阪市教育委員会の試掘調査の結果、中世遺物が発見されたことにより、遺跡範囲の拡大が行われた。また、平成10年に実施した池田市教育委員会による個人住宅建設に伴う緊急発掘調査の結



第6図 榛城寺遺跡第2次調査



第7図 調査地位置図

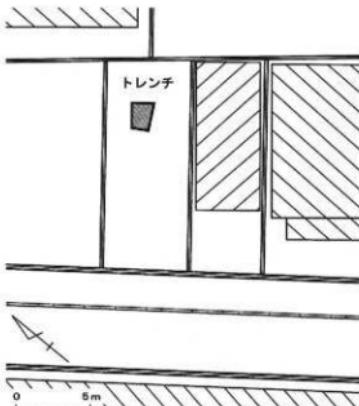
果、飛鳥時代の堅穴式住居跡4基、奈良時代の掘立柱建物跡1基が確認され、出土遺物についても弥生時代後期の土器が確認される。そのことにより桜城寺遺跡は宇保町・城南2丁目一帯にひろがる弥生時代後期から中世にかけての複合遺跡であることが明らかになっている。

調査の概要

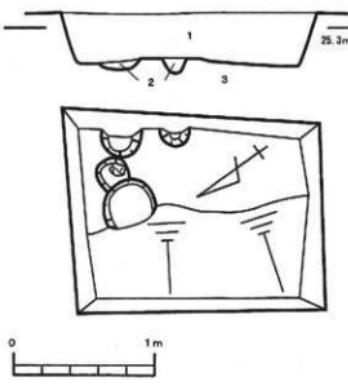
発掘調査は城南2丁目77-1において、個人住宅建築工事に先立ち実施した。今回の調査地は池田市内中央の平野部に位置するが、若干の台地地形の縁辺部にあたる。調査面積は3m²である。

基本層序は、盛土及び黄褐色粘質土の地山である。今回の発掘調査によってみつかった遺構は柱穴4基である。柱穴の深さは10cm前後で、出土遺物はなく時期の特定もできなかった。また、調査面積が狭く、東側は搅乱があるため、掘立柱建物跡の復元にはいたらなかった。

今回の調査地は台地の西端部に位置し、西側に向かってなだらかに下っている。今回の調査により台地上は遺構が明確に存在することがわかり、今後の周辺の調査により遺跡の性格などが明らかにされると考えられる。



第8図 トレンチ位置図



1. 盛土 2. 10TR 3/4 黄褐色シルト
3. 10TR 4/4 淡粘土

第9図 トレンチ平・断面図

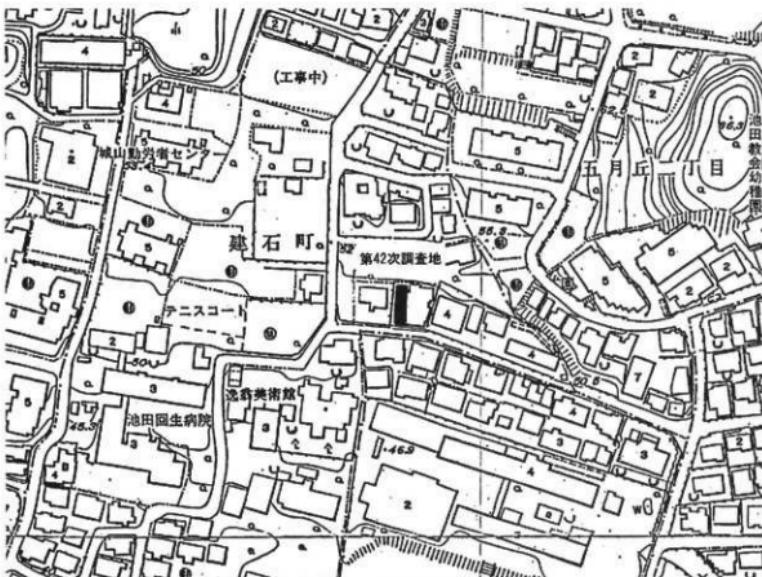
III 池田城跡第42次発掘調査

はじめに

池田城は、池田市の城山町・建石町一帯に位置し、戦国期を中心とする国人池田氏の居城で、五月山塊から張り出した標高50mを測る台地の西縁辺に立地している。その場所からは、眼下に旧池田村を望むことができる。また、丹波山地から大阪湾に流れ込む猪名川、大阪と能勢地方を結ぶ街道を一望することもできることから、池田城は交通の要衝に選地されていたことが判る。池田城を居城とした国人池田氏の出自についての詳細は明らかではないが、14世紀中頃の文献からその名が散見されるようになる。しかし、当時の池田氏の動向は不明な点が多い。15世紀後半頃以降、摂津守護細川氏の被官として、幾度かの落城を経験しながらも、莊園經營や高利貸經營により勢力を伸ばし、摂津の国人の中でも有力な地位を得るようになった。しかし、永禄11年（1568）織田信長による摂津入

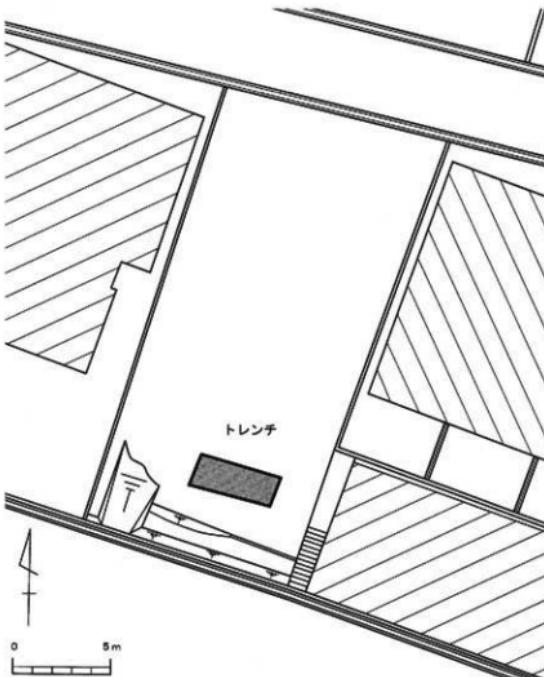


第10図 池田城跡主郭部



第11図 調査地位置図

国に際し、降伏を余儀なくされ、信長の支配下となる。その後、元家臣であった荒木村重によって城を奪われ、池田城は村重の有岡城入城に伴い、政治・経済支配の拠点としての役割を終えることとなった。 池田城跡の主郭部は、現在でも土星と空堀が良好に残り、当時の面影を少しは窺わせるが、城全体の構造について不明な点が多く残っていた。昭和43、44年に主郭部の一部が発掘調査され、建物跡に伴う礎石、石組の溝、中世城郭では珍しい枯山水の庭園跡、落城に伴う焼土層等が検出された。また、平成元年～4年に実施された主郭部の発掘調査では、排水のための暗渠を埋設する虎口、礎石や一部瓦を伴う建物跡、石組の溝、小規模な石垣、主郭内に設けられた内堀、倉庫と考えられる埠列建物跡等が検出された。一方、大阪府教育委員会や池田市教育委員会による主郭周辺の発掘調査によって、主郭部の南方約100mの位置で大手口が存在することや空堀が幾重にも巡らされていることが判明しており、少しずつであるが城の全容が解明されつつある。また、池田城以前の時代についても明らかになりつつあり、昭和60年以降の大坂府教育委員会による調査では縄文時代晚期の土器、弥生時代後期の竪穴式住居跡、古墳時代中期の土坑、奈良時代の木棺墓が検出されており、また、平成3年度の池田市



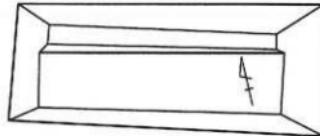
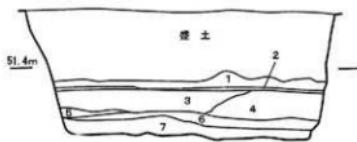
第12図 トレンチ位置図

教育委員会による発掘調査では、庄内期のベット状遺構を伴う堅穴式住居跡が検出されている。

調査の概要

発掘調査は池田市建石町1574-39において、個人住宅用車庫建築工事に先立ち実施した。調査地は池田城跡の東端に位置しており、池田城が立地する五月山から張り出した台地の中央部にある。調査面積は8m²である。

池田城跡は近年の発掘調査、レーダー探査などにより、城の外郭などが判明しつつあり、本調査地西側に南北に走る堀の存在が確認されている。そのことを念頭におき、特に堀の確認ないしは堀幅の確認に主眼をおき調査を実施した。



第13図 トレンチ平・断面図

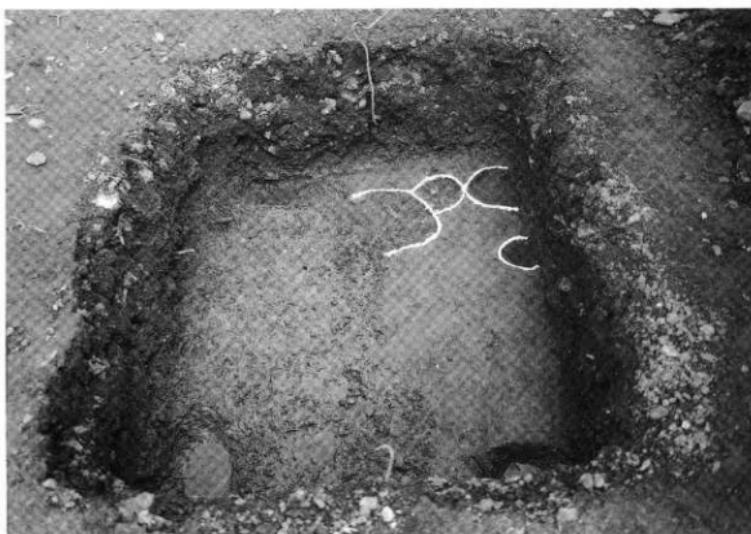
基本層序は第1層が盛土、第2層が旧耕上、及び、床土、第3層が赤灰色の砂礫をふくむシルト、第4層がにぶい褐色粘質土である。掘削深度の関係で地山までの掘削にはいたらなかつた。調査の結果、堀に関する落ち込み等ではなく、堀を確認することはできなかつた。出土遺物については第2層から土師器皿が数点出土したが、図化できるものはなかつた。



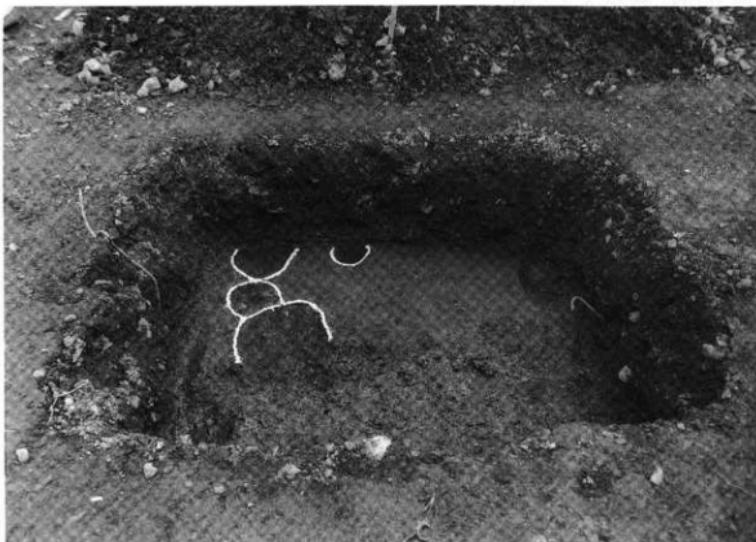
第14図 池田城跡縄張り図

報告書抄録

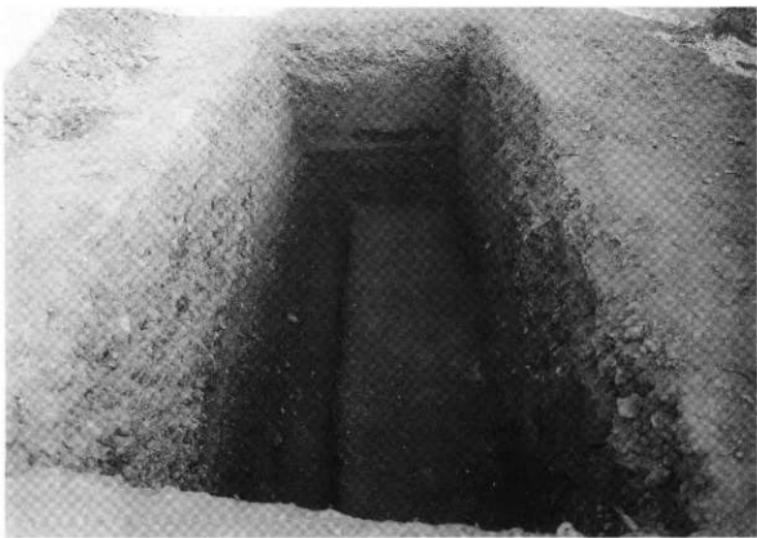
ふりがな	いけだしまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいほう						
書名	池田市埋蔵文化財発掘調査概報						
副書名	池田市文化財調査報告第26集						
卷次							
シリーズ名	池田市文化財調査報告						
シリーズ番号	26						
編著者名	中西正和						
編集機関	池田市教育委員会						
所在地	〒563-8666 大阪府池田市城南1丁目1番1号 TEL0727-52-1111						
発行年月日	2001年3月30日						
所収遺跡	所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
城城寺遺跡第3次	城南2-77-1	272043	34度 48分 51秒	135度 26分 2秒	001010 ～ 001013	3 m ²	個人住宅新築 のための事前 調査
池田城跡第42次	建石町1574-39	#	34度 49分 23秒	135度 26分 2秒	001211 ～ 001219	8 m ²	個人住宅車庫 新築のための 事前調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
城城寺遺跡第3次	集落跡	奈良時代	柱跡	—			
池田城跡第42次	城館跡・集落跡	中世	整地層	土師皿等			



(1) トレンチ全景（南西から）



(2) トレンチ全景（北西から）



(1) レンチ全景（西から）



(2) レンチ全景（南西から）

池田市文化財調査報告第26集
池田市埋蔵文化財発掘調査概報
2000年度
2001年3月
発行 池田市教育委員会
池田市城南1丁目1番1号
編集 社会教育課 文化財担当
印刷 やまかつ株式会社